

人が元気に！まちが元気に！
活性化に取り組む



10月30日、市観光物産総合センターに期間限定でオープンした「高校生レストラン」。主催したのは、鹿屋中央高校調理クラブの8人の部員。開催までの2か月の準備期間で献立やメニュー表の作成、大量の仕入れなど初めて行う取り組みに苦勞しながらもオープンを実現しました。

奔走したのは顧問の郷原航教諭。「今までは様々なイベントに出店し、調理や販売を経験できたのに、コロナ禍に見舞われた3年生には何もさせてあげることができませんでした。市の観光協会からお話をいただきありがたい気持ちでした」と語ります。今回接客を担当した草ノ瀬愛依さん(3年生)は「コロナ禍の3年間、学校で調理をするだけで、やりがいを感じることができない日々もありました」と振り返ります。また、調理を担当した高久遥伽さん(3年生)



も「販売すら経験したことがない私たちが対面で実際に接客ができるのが非常に不安でした」と話します。期待と不安の中、精一杯取り組んだ部員たちは「お客様に目の前で食べていただき、私たち自身も元気が出ました。先生や多くの人のおかげでレストランを体験でき感謝しています」と充実感を感じています。

今回、学生に寄り添い活動を行った郷原教諭は「コロナの影響でホテルや飲食店での雇用も減り、飲食業から離れる卒業生もいます。このような活動を通して改めて調理師や料理人を目指し、最終的には鹿屋で調理師としてまわりの活性化に寄与する人材が出てきてくれることを期待しています」と話してくれました。

人に寄り添い



鹿屋中央高等学校 調理クラブ



ツール・ド・おおすみサイクリング大会

実践的な活動を行う

10月16日、串良平和公園を発着とした「第22回ツール・ド・おおすみサイクリング大会」が開催され、県内外から集まった513人の自転車愛好家が、大隅半島の雄大な自然や温かいおもてなしを満喫しながら疾走しました。同イベントに携わるスタッフは約200人。鹿屋市を拠点に活動するプロサイクリングチームCIEL+BLUE、KANNOYAや鹿屋体育大学自転車競技部、交通安全協会、看護師などのほか、地域活性化に貢献したいという多くの人たちの協力により成り立っています。

主催するツール・ド・おおすみ実行委員会で7年前から実行委員長を務める中道彰吾さんは「平成13年に同大会を始め、途切れることなく大会を行うことができました。



したが、コロナ禍の3年間は特に難しい舵取りを迫られました。実行委員会の中でも『今回はやめよう』という声が何度もありました」と話します。それでも、世間で実施されるコロナ対策以上のことを行い、参加者の体調管理や事故対策に万全を期したことで実現にこぎ着けました。

中道委員長は「CIEL BLUE U KANOYAや体大自転車競技部の地元でこれだけ大きな大会ができており、道路にはブルーラインが引かれ、自転車を楽しむ市民も増えました。ツール・ド・おおすみにより自転車のまちづくりに貢献したいという想いがあります。今後も地域を活性化させたいというスタッフの想いに寄り添いながら、自転車と市民をつなぐイベントとして活動していきたい」と想いを語りました。

